

平成30年度第12回公立大学法人熊本県立大学教育研究会議 議事録

日時：平成31年1月21日（月）午後2時30分～午後3時30分

場所：熊本県立大学大会議室

出席：学長	半藤 英明
副学長	堤 裕昭
事務局長	田中 純二
文学部長	鈴木 元
環境共生学部長	松添 直隆
総合管理学部長	進藤 三雄
地域連携・研究推進センター長	丸山 泰
学術情報リサーチセンター長	村尾 治彦
環境共生学研究科長	北原 昭男
崇城大学教授・九州大学名誉教授	山田 耕路
学校法人九州ルーテル学院長	内村 公春
アドミニストレーション研究科長	森 美智代（オブザーバー）
欠席：熊本県公立高等学校長会長	和久田 恭生
監事：公認会計士・税理士	河喜多 保典
弁護士	本田 悟士

事務局：齊藤事務局次長、多田隈教務入試課長、前田総務課長、脇上企画調整室長、平山教務入試課班長

1 開会

2 学長挨拶

3 議事

(1) 審議事項

① 平成31年度再入学試験における合格者の決定について

事務局教務入試課から、資料1-1に基づき「文学部英語英米文学科において1月15日に再入学試験を実施し、文学部教授会において合否判定を行ったので審議をお願いする。」との説明があった。

続いて、文学部長から、資料1-2に基づき、「書類審査と面接を実施。総合的に判断して合格としたい。」との説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

② アドミネストレーション研究科博士前期課程・後期課程新カリキュラム（案）について

事務局教務入試課から、資料2に基づき「カリキュラムは、教育課程編成・実施の方針に基づき、博士前期課程は、教育課程を共通科目、応用科目、特別研究に分類して編成を行い、応用科目については「公共・福祉」、「ビジネス」、「情報」、「看護」の4分野に整序して必要な科目を配置した。また、「公共・経営コース」、「情報コース」、「看護管理コース」の履修モデルを設定した。博士後期課程は、平成28年度に実施された認証評価の指摘も踏まえ、教育課程を特別演習（コースワーク）と特別研究（リサーチワーク）に分類して編成を行い、特別演習については、アドミネストレーションに係わる諸学問を「公共・福祉」、「ビジネス」、「情報」の3分野に整序して必要な科目を配置した。」との説明があった。

続いて、森アドミネストレーション研究科長から「学部と大学院の整合性を持たせる改革のもとアドミネストレーション研究科の地域における役割を踏まえ、学生の受入れを行えるようカリキュラムの見直しを行った。」との補足説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

(2) 報告事項

① キャップ制について

事務局教務入試課から、資料3に基づき「平成32年度から導入を予定しているキャップ制について、管理栄養士養成施設である環境共生学部食健康科学科を除く全学部・学科で導入し、1年間に履修登録できる単位数の上限は49単位とする。除外科目や成績優秀者の上限緩和措置は適正な範囲で設定を行い、転学部・編入学等についてもキャップ制の対象とする。」との報告があった。

続いて堤副学長から「単位数を抑えることになるが、単位制度の認定根拠となっている学習時間数があるので、学習時間とのバランスを考えていく必要がある。」との補足説明があった。

② 教職課程教員の学部間異動について

松添環境共生学部長より、資料4に基づき「教職課程の教員は文学部に2名、総合管理学部に1名配置されているが、環境共生学部は農業の教職課程が増えるとともに、居住環境学科でも教職免許が取れるようになり、学生へのフォローがこれまで以上に必要となるので、平成31年度から文学部の教職課程の教員1名が環境共生学部に異動することとなった。」との報告があった。

続いて事務局総務課から今後のスケジュールについて報告があった。

4 その他

次回日程 平成30年度第13回 2月18日（月）午前10時～  
本部棟2階 大会議室

5 閉会